李國不動產權制執行法

第三卷

司法省記錄文庫
保第九百四十五號
三冊ノ内

第大號
第一架
第二

司法省記錄文庫
第一三號

司法省
第四二號
寄贈圖書文庫

B150
S3
13C

孛國不動産權制執行法

帝國圖書館藏

第三

B510
S 3
13C

第二章

地所臺帳ニ於テスル登記

第六條

法貨ニテ數額ノ定マリタル㊁執行シ得ヘキ金錢ノ要求㊀ハ負債主ノ地所臺帳ニ地主トシテ登記シアルカ或ハ方ニ其登記ヲ得ンキハ㊃債主ノ請求ニ由リ之ヲ書入要求トシテ地所臺帳ニ登記ス㊂債主ハ負債主ノ各地所ニ係リテ其登記ヲ請求スルヲ得㊄

此場合ニ於テ債主別段ノ請求ヲナサヽル限リハ其要求金額ヲ分割セスニ各地所ノ上ニ登記スルモノトス其登記ノタメ要求保全ノ適度ヲ過コシタルキハ負債主ハ債主ニ對シテ訴訟ヲ起シ以テ其要求金額ヲ各地所ニ分当スルカ若クハ之ヲ一地所ニ負荷シテ一地所ヲ免脱スル

ノ権ヲ有ス㊅

執行シ得ヘキ証書（訴訟法第七百二條第五項）若クハ訴訟法第七百二條第一項二項ノ場合ニ屬セサル執行シ得ヘキ和解ハ只以テ豫防登記ヲ行フニ足ルモノトス㊆

負債主地主タルニ拘ハラス地主タルノ登記アラサルキハ債主ハ負債主ニ代テ之ヲ地主トシテ登記センヿヲ請求シ且此請求ヲナスニ付テ必要ナル証書類ヲ裁判所及ヒ公証人等ヨリ請

求スルヲ得㈧

第七條

要求ノ只假ニ若クハ只保証差出ノ上執行シ得ヘキハ豫防登記ヲ行フニ止ム其豫防登記ハ債主ニ於テ要求ノ名義ノ無制限ニ執行シ得ヘキ公淨㕝ヲ呈出シタル上其請求ニ由テ之ヲ㕝八要求ニ登記換スルモノトス

豫防登記ヲ行フニハ権制執行ヲナスニ付キ必要ナル保証ノ差出アルヲ要セス㈠

第八條

登記ノ請求ハ要求ノ名義ノ執行シ得ヘキ公淨㕝ヲ添ヘテ呈出セサルヘカラス㈡

司法省

要求ノ名義ノ無記名証券或ハ為替券㈢或ハ指圖拂ニシテ裏㕝ヲ以テ移轉シ得ヘキ証券（商法第三百一條乃至第三百三條）ニ基クキハ其証券ヲモ又其要求ノ已ニ他ノ地所ノ上ニ登記セラレタルモノナルキハ現存スル地所㕝八ニ付テノ諸証㕝若クハ地着負債券ヲモ請求ニ添ヘテ呈出スヘシ㈢然ラサレハ只豫防登記ヲ許スニ過キス㈣其豫防登記ハ右ノ証券ヲ呈出シタル上ハ之ヲ㕝八要求ニ登記換ヘスルモノトス㈤

第九條

第八條ニ掲ケタル証券ハ地所㕝八券ト一結シテ之ヲ負債ヲ表スル証㕝類トスヘシ

地所畑ハ券ハ債主ニ交付スヘシ㊀

地所畑ハ券ヲ発付セサル場合ニハ登記ノアリタルヿヲ要求ノ名義ノ執行シ得ヘキ公浄畑ニ記載スルモノトス㊁

負債主ニハ之カ通知ヲナスヘシ

第十條

差押ノ命令ヲ執行スルノ場合ニハ債主ノ請求ニ由テ保全スヘキ金額ニ付テ豫防登記㊀ヲ行フ㊁モノトス

其確定ノ登記ハ第六條八條九條ノ規程ニ照準シテ同一ノ場處ニ於テス㊂

第十一條

司法省

據テ以テ訴訟法ノ規程ニ照準シテ既ニ行フタル推制執行ノ措置ヲ廃止セシムル効力ヲ以テ推制執行ヲ休止スヘキ証畑ハ以テ第六條七條十條ノ規程ニ照準シテ行フタル登記ヲ消除スルニ付テ要スル債主ノ許諾ニ代ユ㊀

第十二條

第六條乃至第十一條ノ規程ニ於テ要スル請求ハ直チニ地所臺帳判事ニ向テ之ヲ呈出スヘシ其請求ノ公認若クハ其請求ヲナス訴訟代理者ノ委任ノ公認ハ之アルヿヲ要セス㊁

第二章

地所臺帳ニ於ル登記

第六條

第一執行シ得ヘキトハ假ニ執行シ得ヘキ若シクハ保証差出ノ上執行シ得ヘキ第七條ト云ヘルニ相對スルナリ、地所臺帳判事ハ本條以下數條ノ規程ニ據テ登記ヲ請求スルモノアルキハ執行判事ノ地位ヲ占ムルモノナルカ故ニ其地位ニ在ツテハ必ス執行ノ附屬ヲ根據トスヘク又執行ノ附屬アレハ以テ充分トスヘキナリ訴訟法第六百六十二條独リ執行ノ附屬ノ唯裁判長訴訟法第六百六十六條訴訟法詳定規則第十二條訴訟法第六百六十九條若シクハ裁判所千八百七十九年三月三十一日制可ノ法律第二十條ノ處理ニ因テ之ヲ許與シ得ヘキ場合ニ在テハ訴訟處理ノ執行ノ附屬中ニ判然タルヤ否ヤヲ査閲セサル可ラス而シテ其附屬ニ於テ方式上ノ欠点ナキヤハ直テニ登記ノ請求ニ應スヘク又其附屬ノ核実上ノ当否ヲ査閲スルノ権ナキナリ、確定効力ノ証認アルモ以テ地所得有法第十九條第二項ト相反シテ執行ノ附書ヲ要セザラシムルモノニアラザルハ論ヲ俟タス此義訴訟法第六百六十二條ノ規程ヲ指シテ之ヲ証セサルモ確定効力ノ証認アル裁判ノ公淨屬ヲ附

共スルニハ訴訟法第六百六十九條ノ制限ニ依ラスト云フヲ以テ既ニ明白トス、外國裁判所ノ裁判ハ猶リ訴訟法第六百六十條ノ第二段ニ由テ発シタル執行裁判ニ據テ執行シ得ヘキモノニシテ此点ヲ顧慮スルハ亦地所臺帳判事ノ職務ナリ其他尚地所臺帳判事ハ方式上正当ナル執行ノ附書ヲナシテ差出シタル法事ノ(アレヒツクト)以テ執行ヲナシ得ヘキ法事ニ属スルヤ否ヤヲ査閲セサルヘカラス其法事ハ即チ裁判ノ外訴訟法第六百六十四條第一ニ訴訟法第七百二條ニ掲ケタル諸証書第二千八百七十九年三月二十四日制可ノ訴訟法詳定規則第十條十二條及ヒ二十九條ニ掲ケタル法事但シ其第十二條ニ付テ一言ス該條ニ掲ケタル和解ハ千八百八十年四月一日制可ノ田野及ヒ山林警察法ニ因テ除却セラレタリ第三ニ千八百七十九年三月二十八日制可ノ中裁人規則第三十二條ニ基テナシタル中裁人ノ和解トス故ニ若シ執行シ得ヘシトセラレタル法事ニシテ是等ノ証書ニ属セサルトキハ執行ノ附書アルニ拘ラス執行ヲ為ス丁能ハサルナリ又管轄違ノ裁判所書記訴訟法第六百六十二條第二段ヨリ執行ノ附書ヲ與ヘタルトキニ於テモ地所臺帳判事ハ権制登記ノ請求ヲ拒絶スヘキナリ何トナレハ管轄ノ当否ヲ

査閲スルモ未タ以テ執行ノ附書ノ核実上ノ当否ヲ査閲スルモノトスヘカラサレハナリ裁判所書記ヨリ其ヘタルニ非サル執行ノ附書ニ関シテ其管轄ノ何如ヲ査閲スルヿニ付テハ千八百七十九年七月二十四日制可ノ字漏斯裁判執行吏事務章程第五十條第四段ヲ参照スヘシ

訴訟法ノ規程ニ照準シテ訴訟法第六百七十一條第六百七十二條第一段ヲ参照スヘシ又仝第六百七十二條第二段ニ関シテハ本法律第七條ヲ参照スヘシ権制執行ノ着手ニ付キ之アルヘキ自余ノ先定要件就中負債ノ名義ノ送達ニ至テハ地所臺帳判事ニ於テ独立シテ之カ査閲ヲ遂クヘキナリ、訴訟法第六百七十三條ノ規程ニ依ルキハ陸海軍ノ現役ニ服スル軍人ニ係ル権制執行ハ之ヲ其所轄ノ軍務廳ニ通知シタル後ニ於テスヘキノ定メナレ𪜈権制登記ニ於テハ然ルヲ要セス勿論該規程ハ其格位ヨリ之ヲ言フキハ諸般ノ権制執行ノ上ニ関スルモノナレハ不動産ニ係ル権制執行ノ上ニモ及フモノナレ𪜈又一方ニ於テハ訴訟法第七百五十七條第二段ヲ以テ権制登記ノ先定要件タルヘキモノヲ定ムルヿヲ各邦法律ニ一任シ而シテ各邦法律上ニ於テハ更ニ彼ノ第六百七十三條ニ應当スルノ規程ヲ立ツルヿアラザルカ故ニ該條ノ

規程ハ固ヨリ履踐スルヲ要セサルナリ

又町村有ノ地所ニ係リテ権制登記ニ及ブノ場合ニ於テハ先ツ其所轄ノ行政廳ニ照會スヘシトノ普通裁判規則附録第百五十三條ニ基ク所ノ制限モ最早今日ニ於テハ存立セサルナリ蓋シ千八百八十一年六月九日付ノ皇室裁判所ノ決議ニ於テ尚該附録第百五十三條ヲ以テ適用シ得ヘキモノトシタルハ是レ千八百七十九年三月四日制可ノ不動産権制執行法第二十二條中権制登記ヲ行フニ從来ノ規程ニ照準シ云々ノ語句アルニ基クモノナレモ本法律ハ復此ノ如キ語句ヲ掲ケスシテ乃チ登記ノ先定要件タルヘキモノヲ自立シテ定メタルカ故ニ該決議モ亦後自ラ廢滅ニ歸スルナリ

第二代用物件ノ若干ノ数額ニ在ル要求ニ付テモ以前ハ普通法典第一編第二十卷第十一條十四條並ニ千八百三十四年三月四日付ノ法令第二十二條ノ規程ニ據テ登記ヲ許シタリシカ既ニシテ千八百七十二年五月五日制可ノ地所得有法第十九條第三項及ヒ第二十三條ヲ以テ之ヲ變更セラレ爾来今ニ至ル迄此等ノ規程ニ依リシナリ今ヤ則チ登記スヘキ数額ハ独逸帝國ノ法貨ヲ以テ之ヲ定ムヘキヿヲ先要トセリ是故ニ種類ト数額ノ定マリタル無記名証券ノ仕

拂ヲ命スル裁判アルモ據テ以テ登記ヲ行ハシ
ムル丁能ハス
千八百三十四年三月四日付ノ法令第二十二條
ニハ元資ノ外尚利子費用及ヒ登記ノ費用ヲ掲
ケタリ然レモ本法律ニ於テハ是等ヲ明文ニ掲
クルヲ以テ必要トセサルモノハ利子ハ無論執
行シ得可キ要求ノ一部分ニシテ費用ハ執行シ
得ヘシト明言セラレタル費用確定ノ決議訴訟
法第九十八條及ヒ第七百二條第三項ニ據テ自
カラ執行シ得ヘキ一個ノ要求ヲナシ故ニ此要
求ノタメニハ其根據タル裁判ヲ呈出スルヲ要
セス亦之ヲ送達スルヲ要セス且其裁判ハ只假

ニ執行シ得ヘキモノタルモ差支ナシ又登記ノ
費用ハ法律上地所得有法第三十條既ニ眉八要
求ノ一部分ニシテ尚本章ニ在ツテハ執行ノ費
用タルカ故ニ訴訟法第六百九十七條ノ規程ニ
服スヘキモノナレハナリ而シテ登記ノ費用代
言人ノ報酬ヲモ含ム、代言人報酬規則第二十三
條ニ至テハ先ツ之カ確定ヲ得ルヲ要セス是レ
裁判所執行吏事務章程第五十七條ニ依ルモ亦
当ニ然ルヘキヲ見ルナリ然ルニ皇室裁判所ハ
毎々之ニ反スルノ意見ヲ固執シ敢テ之ヲ実際
ニ施用セリ
執行シ得ヘキ金銭ノ要求ヲ登記セラルヘキ地

所ニ於テ是ヨリ先キ已ニ其要求ニ対シテ物上ノ義務ヲ負フモ少クモ其金銭ノ要求ニシテ元金ニ引直ホサレタル未済ノ利子ニ存スル場合ニハ以テ再度ノ登記ヲ行フノ障碍トナラサルナリ其理由タル此再度ノ登記ハ債主ノ負債主ニ於テ或ハ権制羅責ヲ蒙ラントスルトキハ其未済ノ利子ヲ元金トナシテ本要求ノ列ニ挿入シ以テ後番ノ冒入要求ノタメニ及テ先セラルヿヲ防ク所以ニシテ即チ之ヲ為サヽルトキハ二年ヨリ旧キ利子ハ都テ後番ノ冒入要求ノ後ニ随ハサルヲ得サレハナリ

第三十七條 勿論再度ノ登記ヲ行フト雖モ其前ニ於テ已ニ登記セラレタル後番ノ冒入要求ハ其効力ヲ妨ケラルヽ所ナシ

第三 執行シ得ヘキ名義ハ以テ登記ノ許諾ニ代ハルモノナレハ地所得有法第二十三條ニ於テ定メラレタル其諸要件ヲ含有スヿ肝要トス故ニ裁判ノ文言中ニ支拂ヲ受クヘキモノヽ明示セラルヽヿナク例ヘハ其ノ分散資額中ニ支拂フヿヲ命スルキノ如キハ登記ヲナスヘカラサルナリ之ニ反シテ遺産管理人ヨリ其ノ代理スル所ノ不分明ナル相続人等ノタメニ請求スル裁判上ノ冒入要求ノ登記ハナシ得ヘシトノ事例アリ又或ル定マリタル人ノ遺言上ノ相続

人等ニシテ其姓名ヲ明掲セラレサルモノヽタメニハ登記ヲナスヘカラストノ事例モアリトス然レモ右革一ノ判決ノタメ該法律革二十三條ニ関スル説明中ヨリ抽出セラレタル所ノ此規程ハ唯無記名ノ書ハ要求ヲ禁止スル所以ナリト云ヘル理由ハ要スルニ全條ノ文辞ヲ顧考セサルモノト云フヘシ勿論「デルンブルヒ」モ或ル定マリタル人ノ将来ノ卑属ノ親ノタメニスル登記ヲ許サント欲セリ実際上ニ於テハ未タ一定ノ説ヲ得ス

地所臺帳判事ハ法上人ノタメニ登記ヲ請求セラルヽキハ其法律上ノ存立ヲ証明セシムヘキヤ否ヤハ議論ノ在ル所ナリ然モ此問題タル裁判上ノ昏ハ要求ヲ登記スルニ付テハ之ヲ否定セサルヘカラス何トナレハ此場合ニ於テハ地所臺帳判事ハ執行判事タルノ地位ヲ確守セサルヘカラサレハナリ法上人ノタメニスル登記ニハ法上人ノ名前ヲ挙クヘクシテ其代理者ノ名前ヲ挙クヘキニ非ス又要求ノ名義ニ徴シテ一個ノ商号ノ債主タル場合ニモ之ト仝様ニシテ権制登記ハ猶リ其商号ノタメニ之ヲ請求スルヲ得ヘク縱ヒ商号ノ持主ハ単立ノ商人タリト雖モ其持主ノタメニ之ヲ登記スルヲ得サルナリ

債主ノ方ニ於テ訴訟共同（ストライト、ゲノッセンシヤフト）ノ関係ヲ存スル場合ニハ登記ヲナスニ両様アルヘシ即チ裁判ノ文言中ヨリ各債主ニ於テ其要求ノ金額ヲ分受スヘキ丁判然セス且債主一同ヨリ登記ノ請求ヲナシタルトキハ只諸債主ノタメニ合一ノ登記ヲナスヘク又一名ノ債主ヨリ登記ノ請求ヲナシ且其ノ受クヘキ分額ノ裁判ノ文言中ニ於テ判然タルトキハ特ニ其債主ノタノ其分額ヲ登記スヘキナリ或ハ裁判ノ文言中ニ於テ其ノ登記ヲ請求スル所ノ分額ノ判然タラサル丁アルモ地所臺帳判事ハ自ラ裁判ノ解釈ニ従事スヘキニ非ス又一名ノ債主ノタメ若干

ノ分額ヲ定メテ執行ノ附属ヲ共ヘラレタルモ其執行ノ附属ノ裁判ノ文言ト相抵觸スルトキハ以テ登記ノ請求ヲ聽クヲ能ハサルヘシ何トナレハ執行シ得ヘキ法事ニ由テ定マリタル負債上ノ関係ヲ核実的ニ変更スルハ執行ノ附属ヲ以テスヘキニ非サレハナリ、負債主ノ方ニ於テ訴訟共同ノ関係ノ成立セル場合ニ付テハ第四ノ註釈ヲ参照スヘシ、執行シ得ヘキ金銭ノ要求ハ畧ハ要求トシテ登記スヘク地着要求トシテ要記スル丁能ハサルナリ之ニ付テ説明ノ言フ所ヲ見ルニ曰ク是レ其登記タル素ト自ラ存続スル要求ヲ権制執行変分ヲ以テ抵当法上ニ保

全スルノ趣意ナレハナリト

第四 即チ之ヲ別言スレハ負債主所有権ノ登記コソ肝要ニシテ又免ニ角之アレハ足ル必スシモ地所得有法第十九條第二項ニ於ルカ如ク其ノ裁判ヲ受ルノ時ニ於テ業ニ已ニ地主トシテ登記シアルヲ要セスト云フナリ然リ而シテ負債主ノ権制執行ニ服スヘキ財産ハ其ノ権制執行ノ時ニ於テ有スルモノタルヘキヲ以テ債主ノ既ニ執行シ得ヘキ名義ト共ニ権制登記ノ請求ヲ地所量帳判事ニ提出シタリシキ地主トシテ登記セラレアル負債主ノ其地所ヲ他ニ明渡シタリモ猶其請求ハ聴届クヘキナリ然レモ已ニ其前ニ於テ明渡ヲナシタルニ至テハ(総ヒ新得有者ノ未タ地主トシテ登記セラレサルモ)復タ昏入要求ヲ登記スルヲ得サルナリ何トナレハ地所ニ負担ヲ加フル権理ノ新得有者ニ移ルハ其ノ地主トシテ登記セラレタルノ時ニ在ラスシテ既ニ其明渡ヲ受ケタルノ時ニ在レハナリ尚外ニ裁判上ノ昏入要求ノ起リタル場合ニ付テモ固ヨリ之ト全一ノ原則ニ依ルヘシ

登記済ノ負債主ノ相続人等ニ対シテハ地所得有法第五條ニ照準シテ其相続人等ノ自ラ地主トシテ既ニ登記セラレアルカ或ハ方ニ登記セラレン後ニ始メテ権制登記ヲナシ得ヘキナリ又債主ハ相続人等ノ石登記ヲ或ハ本條第四段

ニ依テ地所臺帳判事ヲシテ直接ニ取行ハシメ得ヘク或ハ地所臺帳法第五十五條六條ニ依テ相続人等ヲシテ自ラ申出テサルヲ得サルニ至ラシメ得ヘキナリ而シテ其際既ニ相続人等ニ於テ旧負債主ノ相続人トシテ裁判ヲ受ケタルモ或ハ負債主ノ自ラ裁判ヲ受ケタル後ニ死去シタルモ是ニ由テ差別ヲ生スル所ナシ訴訟法第六百九十三條ノ第一段モ亦唯負債主ノ少クモ猶債主ノ請求ヲ申出テタル時ニ於テ存生シタリシヿヲ要ストノ一点ニ於テ顧慮セラルヘキナラン然レモ若シ右第一ノ場合ニ於テ相続人等一同ニ一様ノ判決ヲ受ケスシテ各自遺産ノ負債ヲ弁償スルカタメニ定マリタル金額ノ支拂ヲ余セラレタル相続人等ハ地所臺帳ニ登記セラレタレモ其割持部分ノ各幾許ナルヤハ登記セラレタルニ非ストセハ亦尚権制登記ヲ施行シ得ヘキヤ否ヤ爰ニ一問題ヲ生スルナリ蓋シ多数ノ意見ハ之ヲ然定スルモノヽ如シ或ハ夫ノ千八百五十七年三月十六日付ノ惣會決議ヲ援テ之ニ異見ヲ述フルモノアレモ該決議ハ唯共同相續人相互ノ関係ニ渉ルノミ若シ夫レ共同所有ノ共同相続ニ基キタルニ非ストセハ持部ノ廣袤ノ地所臺帳ニ於テ明記シアラサルニ拘ハラス共同所有主中一名ノ持部

ニ渉リテ登記ヲ行ヒ得ヘキナリ又各持部毎ニ金高ヲ定メテ登記ヲ行フヘキカ或ハ聯帶義務アリト判決セラレタルトキ全地所ニ要求ノ全額ヲ登記スヘキカハ執行シ得ヘキ名義ノ中ニ判然タラサルヘカラス此点ニ付テハ判事ノ解釈ヲ禁スヘキニアラスシテ而カモ裁判ニ掲ケタル理由並ニ事跡ノ上ニ勘考ヲ及ホスヿサヘモ由テ以テ裁判ノ意ヲ解釈セントスルノ限リハ之ヲ許サヽルヲ得サルヘシ然レモ地所臺帳判事ノ此限界ヲ越ヘ即チ解釈ヲナサントスルニ非スシテ獨立ノ裁定ヲ下サントスルニ至テハ是レ不当ノ所為ニ渉ルモノトス

司法省

「ヨホー」第五冊ニ於テハ登記済ノ地主ノ登記ナキ相続人等ニ係ル豫防登記ノ請求ヲ以テ差許スヘキモノトセラレタリ「バールマン」ノ之ニ反對シタルハ蓋シ其当ヲ得タリトス抑モ負債主即チ地主ノ已ニ登記シアルカ若クハ方ニ登記セラレン」ヲ要ストノ原則ハ例外ヲ容サヽルモノニシテ説明ニ於テモ負債主ノ地主トシテ登記セラレサル限リハ豫防登記若シクハ處辯制限ノ登記ヲ許ス可ラストシ乃チ其際ニ付キ債主ニ指示スルニ本條第四段ノ共ヲル幇助ヲ以テセリ

第五 而カモ一地所毎ニ要求ノ全額ヲ登記スル

ノ意ニシテ即チ総関ノ冒入ナリ其意本條第二段ニ因テ自カラ明瞭トス是ニ由テ千八百三十四年三月四日付ノ法令第二十三條ノ債主ニ於テ其要求ヲ負債主ノ数個ノ地所ニ繋リテ登記セラレン〕ヲ欲スルトキハ其要求ノ金額ヲ分ツヘシトセル従来ノ原則ハ変更セラレタルナリ此変更ノ理由ニ付テハ第六ノ註釈ヲ参照スヘシ之カタメ一臺帳紙ノ上ニ連載セラルヽ各地所ハ権制登記ノ点ニ於テハ全一體ノ不動産ト見做スヘキヤ否ヤノ疑問モ将来ニ向テ其跡ヲ絶チタリトス而シテ本條（第二段）ハ又同時ニ債主ノ請求ニ法律上ノ解釈ヲ與ヘ其ノ以テ反対

ノ意旨ヲ顕ハサヽル限リハ総関ノ書入ノ登記ニ在ルモノト定メタリ

従前ニ於テハ一負債主ノ数地所ヲ所有セル場合ト連帯ノ義務アリト判決セラレタル数負債主ノ各々一地所ヲ所有セル場合トヲ區別シタリシカ此區別モ亦最早無用ニ属スルナリ何トナレハ右第二ノ場合ニ於テモ今後ハ差支ナク要求ノ全額ヲ各地所毎ニ登記スルヲ得レハナリ〇千八百七十九年三月十日制可ノ猶逸裁判費用法ノ詳定規則第二十九條第二段ニ據テ裁判費用ノ登記ヲナスニ至テハ之ヲ苛密ニ論スルトキハ爰ニ属セサルモノニシテ寧ロ地所得有

法第十九條第三項ニ屬スルナリ然レモ裁判費用ノタメニ生スル書入要求ノ名義ト雖モ敢テ之ヲ特別ノモノト了解スヘキニ非スシテ只諸般ノ執行シ得ヘキ要求ニ付着スル抵当ノ名義ノ一分類タルカ故ニ裁判費用ノ登記モ亦新原則ノ下ニ服セサルヲ得サルナリ亦以テ從来ノ一疑問ヲ解除シタルモノト云フヘシ

第六　此第二段ハ上院ノ委員會ニ於テ挿入シタルモノニシテ則チ其ノ基因スル所ハ該委員會ノ説明ニ於テ從来ノ法規ヲ變更スルカタメニ主持スル所ノ理由ヲ强固ナルモノト認メサルニ在ルナリ而シテ其理由ハ即チ左ノ如シ曰ク

総関ノ書入要求タル素ト是レ勸メテ繁生セシムヘキモノニアラサルヲ以テ千八百三十四年三月四日付ノ法令ニ於テハ其第二十三條ノ規程ヲ以テ其本條ト同一ノ場合ニ於テ生起スルヿヲ妨止セラレタリト雖モ然レモ債主ト負債主ノ両利益ヲ對照シテ之ヲ考フルニ債主ノタメ其生起ヲ容サヽルヘカラサルノ必要在テ存スルナリ蓋シ各個ノ地所ノ評價タル多少不安全ヲ免レサルカ故ニ分割ノ登記モ亦唯毎ニ極メテ不明ノ價値ヲ表スルニ過ギサルノミ而シテ負債主ニ在テハ其随意ヲ以テスルヿハ固ヨリ何時ニテモ又ナシ得ル限リ幾回ニテモ総関

ノ冒ハ負債ヲ起シ得ヘキカ故ニ其ノ数々之ヲ起シタル後ニ至テ分割ノ冒ハ要求ヲ生シ得タリトテ債主ハ決シテ法律上ニ安全ノ地位ヲ得タリト云フヘカラサルノ場合モアラン加之対人債主ト虽モ執行シ得ヘキ一名義ニ據テ負債主ノ数地所ノ権制糶賣ヲ請求シ得ルカ故ニ已ニ千八百六十九年ノ不動産権制糶賣法ニ依ルモ多少ナシ得ル如ク差押ヲ以テ地所毎ニ全部ノ要求ニ付キ特権ヲ得ラルヽハ無論ナリトセハ権制登記ノ際ニ於テ必ス要求ヲ分割セシムルヿ愈々以テ根據ナキモノト云ハサルヘカラス左レハ已ニ千八百三十六年四月二十五日付

司法省

ノ司法省ノ訓令ニ於テモ数地所ノ一臺帳紙ノ上ニ登記シアルキハ分割セサルノ登記ヲ許シテ以テ事理ノ自然ニ一歩ヲ遜リタリ又「エーレンブライトスタイン」ナル司法局ノ管轄地方並ニ「ノイフォールポンメルン」及ヒ「リューケン」ニ於テモ旧トヨリ数地所ノ上ニ分割セサルノ登記ヲナスヲ制限シタルヿアラサルナリ千八百六十四年二月二日制可ノ法律第八條第三段千八百七十三年五月二十六日制可ノ法律第二十二條第二段且夫レ分割セサルノ登記ヲ許スモ訴訟法第七百八條ニ掲ケタル所ノ権制執行ハ債主ノ満足並ニ費用ノ填償ニ必要ナルモノヽ外ニ

及フヘカラストヽ原則ニ抵觸スルヿナシ何ト
ナレハ權制登記ハ質取ノ如ク次テ直チニ抵当
ヲ賣拂フテ債主ヲ滿足セシムルカタメノ準備
タル法事ニ非サレハナリ乃チ權制登記ノ目的
トスル所ハ唯要求ノ保全ニシテ負債主ハ此目
的ヲ妨ケサル限リハ隨意ニ其抵当物件ヲ處分
スルノ自由アルモノナリト
之ニ及シテ上院ノ委負會ハ固ヨリ全一ノ裁判
上ノ書入要求ノタメニ數地所ニ負擔ヲ加フル
ハ抵当貸借ニ危害ヲ與フルヿ少ナカラストノ
持論ナリシカ終ニ「ラインヿ」地方ニ於テ已ニ然ル
如ク此際負債主ニ訴訟ヲ許シテナリトシテ其

危害ヲ除カントノ点ニ於テ一致シタリ而シテ
其報告ニ於テ曰ク負債主ハ要求保全ノ過度ナ
ルヲ証明スヘク債主ハ又之ニ対シ総テノ異論
ヲ申立ルヲ得ヘシト然リ而シテ此説ニ対シテ
ハ各地所ノ特立ノ價値ヲ確定スルハ容易ニナ
シ得ヘキニ非ス、債主ハ各地所ニ係ル權制糶賣
ノ請求ヲ以テスルモ亦是ノ如キ訴訟ヲ遮断シ
得ヘシ、又負債主ニ於テ尚其地所ヲ以テ過度ノ
保全ヲナシ得ルノ余裕アラハ敢テ是ノ如キ訴
訟ヲ必要トセサルヘシトノ反対説出テ其反対
説タル大ニ其当ヲ得タルモノナルニモ拘ハラ
ス終ニ右ノ説ニ決シタリ下院ノ委負會ニ於テ

モ亦本條第一段ノ該規程ハ到底過酷ニ渉ルヲ免レサルカ故ニ其過酷ヲ拒クニ必要ナル一手段トシテ負債主ニ之カ訴訟ヲ許スヘシトスルニ決シタリ

第七 此規程モ亦上院ノ委員會ヨリ出テタル所ナリ初メ該委員會ニ於テハ都テ執行シ得ヘキ証書ニ基ク登記ハ之ヲ許サヽラント欲シタリシカ政府派出委員ノ之ニ異議ヲ唱ヘタルヲ以テ執行シ得ヘキ証書ヲ以テスル請求ニ対シテハ只豫防登記ヲ許スヘク而シテ此豫防登記ヲ書ハ要求ニ登記換ヘスルハ地主ノ之ヲ許諾シタルカ或ハ之ヲ許諾スルノ義務アリトノ裁判ヲ受ケタル後ニ於テスヘキヿニ改メタリ是レ殊ニ書ハ法ノ原則ニ隨ヒ権制上ノ書ハ要求ヲ速ニ他ニ移轉シテ以テ執行シ得ヘキ名義ニ対シテ負債主ノ猶申立テ得ヘキ異論ト其他訴訟法ニ於テ充分負債主ニ許サレタル異論訴訟法第七百五條第四段トヲ杜塞セントスルカ如キ弊害ナカラシムル所以トス

第八 此規程ハ債主ヲシテ地所臺帳法第五十五條六條ニ於ケルヨリハ猶一層ノ便路ヲ得セシムルモノナリ蓋シ從前ニ於テハ登記ナキ地主ニ係リテ裁判上ノ書ハ要求ノ登記ヲ請求スル債主ハ該法第五十五條ニ所謂権理者ニ属スル

ヤ否ヤ先ツ第一ニ疑フヘキノ点トス又縱ヒ其債主ヲ以テ該條ニ所謂権理者ニ属スルモノト見做シテ偖其債主ハ負債主ヲシテ自ラ所有権ノ登記ヲ求メシムルノ請求ヲナシタリトスルモ若シ負債主ニ於テ地所臺帳判事ノ督促ヲ聽カス罰令ヲモ畏レスシテ終ニ自ラ登記ヲ求メサルトキハ債主ハ行務代任訴訟法第七百七十三條ノ迂路ヲ取テ以テ之カ登記ヲ為シ遂ケサルヲ得ス加之債主ハ孰レニ就テ其行務代任ノ差許ヲ請求スヘキカ亦疑ナキニ非ス因テ本條ノ此第四段ハ債主ノ執行権ヲシテ其ノ後来ノ法規ニ於テハ未タ嘗テ存立セサルノ一点ニ延長

セシメ以テ右等ノ疑團ナカラシメタリ然レモ又此第四段ノ規程ヲ推スニ債主ノ其請求ヲ成立セシメンカタメ地所臺帳判事ニ其執行権ヲ証明セサルヘカラサルハ明白ノ了トス又其際必要ノ証書類ヲ集取スルニ付テモ仝様ニシテ裁判所及ヒ公証人等ハ債主ノ之ヲ得ヘキ特別ノ権理ヲ有スルニ非サル限リハ其ノ送達ヲ受ケタル執行シ得ヘキ名義ヲ呈出シテ以テ執行権アルヿヲ証明シタル後始テ之ヲ附與スルヲ得ヘシ何トナレハ其必要ノ証書類ヲ集取スルヿモ亦権制執行上ノ一事行ニ属スレハナリ其他此規程ハ負債主ノ已ニ地主トナレルモ未タ

其登記ナキヿヲ先要トセルカ故ニ若シ猶所有
権ノ得有ヲ完成スル一事行ヲ要スル例ヘ
ハ負債主他ノ地所ニ建造ヲナシテ以テ其建造
ノ地所ニ関スル所有権ヲ請求シ得ルニ至リタ
ルキノ如キハ之ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ
地所臺帳法第五十五條ニ関スル説明ニモ云ヘ
ル如ク何人ト雖モ所有権ノ得有ヲ強要セラル
ヘキニアラサレハナリ左レハ実際上此規程ニ
緊要ノ干繋アルモノハ相続ノ場合及ヒ尚旧法
ニ因テ名義ノ主張ト引渡ノ挙行ヲ以テ完成シ
タリシ地所得有ノ場合ニ止マルヘシ第一ノ場
合ニ於テハ想定上ノ割持部分ニ繋リテ登記ヲ

ナスカタメ共同相続人中ノ一人ニ繋リテ請求
ヲナシ得ルナリ又請求ハ本法律第十二條ニ照
準シテ之ヲ呈出スヘク其登記ノ費用ハ権制執
行ノ費用ナレハ則チ亦之ヲ登記スルヲ得ヘキ
ナリ

其他説明ハ執行シ得ヘキ名義ヲ持スル債主モ
亦地所臺帳法第五十五條六條ニ所謂権理者ニ
属セシムヘシ故ニ該債主ハ負債主ノ登記ヲ強
要スルニ二様ノ手段アルモノナリト云フルヲ
根據トセリ尚外ニ執行裁判所ニ呈フルニ決議
ノ上執行ノ手續ヲ踐テ債主ノタメニ必要ナル
証書類ノ引渡ヲ命令スルノ権ヲ以テセントノ

建議出テタルモ下院ノ委員會ニ於テ遂ニ拒絶セラレタリ

第七條

第一初頭ノ文言ニ依テ之ヲ推スニ債主ニ於テ豫防登記ヲ請求セスシテ不当ニモ肩入要求ノ登記ヲ請求シタリトスルモ是故ヲ以テ其請求ヲ棄却スヘキニ非スシテ則チ猶豫防登記ヲ行フヘキモノヽ如クニ思ハルルナリ其他ニ於テハ此規程ハ千八百七十九年三月四日制可ノ法律第二十二條第三段ニ適合シ訴訟法第六百五十八條ニ隨和スルモノトス、只假ニ執行シ得ヘキ要求ノ名義ニハ殊ニ催促愛分（マーレン、フェルファーレン）ニ

司法省

於テ発シタル執行ノ命令（訴訟法第六百四十條）モ亦属スルナリ此執行ノ命令ハ固ヨリ只稱ニ（訴訟法第七百四條）執行ノ付書ヲ要スルヿアルノミトス之ニ反シテ故障ヲ申立テ得ヘキ判決ハ該名義ニ属セサルナリ勿論故障ノ唯時トシテ執行停止ノ効力ヲ有スルヿアル（訴訟法第五百三十五條）モノナルハ失当ニ非ス○又此規程ニ於テハ（訴訟法第七百五十七條ノ第二段ニ於ケル推委ニ據テ）只假ニ執行シ得ヘキ要求ノ名義ト只保証差出ノ上執行シ得ヘキ要求ノ名義トヲ同列ニ置カレタリ故ニ権制登記ニ於テハ総ヒ保証ヲ差出シタリモ豫防登記ヲ行フニ過

キス即チ是レ動産ニ関スル権制執行ト権制登記トノ間ニ存スル一區別ト云フヘキナリ

第二ノ文言ニ依ルニ債主ニ於テ豫防登記ヲ冒ハ要求ニ登記換ヘセントト欲スルキハ其要求ノ名義ヲ無制限ニ執行シ得ヘキ公浄書ニテ呈出セサルヘカラサルナリ而シテ無制限ノ執行カハ其判決ノ確定効力ト共ニ生スルモノナレハ債主ハ其要求ノ名義ニ確定効力ノ証認ヲ付シタルヲ呈出セハ充分ナルモノヽ若クナレ𪜈此規程ニ於テハ決シテ然リトセス乃チ債主ハ確定効力ノ存立シタルカ其他都テ制限ノ失落シタル後ニ訴訟裁判所ノ冒記ヲシテ無制限ナル

執行ノ付書ヲ許所セシメ若クハ既ニ許所セラレタル執行ノ付書ニ変更ヲ加ヘシメ據テ以テ登記換ヲ請求セサルヲ得サルナリ盍シ確定効力ノ証認ハ其ノ既ニ假執行ノ付冒ヲ具ヘル要求ノ名義ノ上ニ加ヘラレタルキト虽𪜈以テ請求ノ根據トスルニ足ラサルヤ明ナリトス然レ𪜈此ノ無制限ニ執行シ得ヘキ要求ノ名義ノ更ニ先ツ登記換ヲ行フノ前ニ於テ送達セラルヽヿヲ要ストハ爰ニ毫モ規定セラルヽヿナク又訴訟法第六百七十一條第一段ヲ推シテ之ヲ考フルモ其ノ然ラサルヲ見ル何トナレハ権制執行ハ已ニ豫防登記ト共ニ起始シタルモノニシ

テ而シテ豫防登記ヲ確定登記ニ登記換ヘスル
ハ地所臺帳上ノ一施為トシテ即チ唯各邦法律
ノ規程ニ服スヘキモノナルヲ以テナリ要スル
ニ登記換ハ再タヒ訴訟法第六百七十一條ニ照
準シテ権制執行ノ着手ニ付キ之アルヘキ先定
要件ヲ査閲スヘキ必須アラシムル程ノ独立ナ
ル権制執行上ノ事行ニハ非ス寧ロ只已ニ起始
シタル権制執行ヲ継続スル所以ニシテ但タ已
ニ存在セル名義ヲ無制限ニ執行シ得ヘキ格式
ニ於テ呈出スルヲ要スルノミ是故ニ豫防登記
ヲ行フタル後負債主ノ死亡スル丁アリモ登記
換ハ訴訟法第六百九十三條ニ照準シテ其死亡

ニ構ヒナク之ヲ行フヲ得ヘク而カモ已ニ負債
主ノ相続人等ニ係リテ無制限ナル執行ノ付帰
ヲ許與シタリシ場合ニ於テモ然ルナリ或ハ此
場合ニ於テハ必ス執行ノ付帰ヲ相續人等ニ送
達ス訴訟法第六百七十一條第二段ヘシトスル
モ非ナリ何トナレハ訴訟法ノ該規程ハ相続人
等ニ係ル独立ノ執行上ノ措置ニ付テ定メラレ
タルモノナレハナリ
登記換ノ費用ハ登記ノ費用ニ属スルモノニシ
テ登記ノ費用ニ付テハ法律上ニ於テ地所得有
法第三十條地所之カ責任ヲ負フヘキヲ以テ何
如ナル場合ト虽モ之ヲ本要求ト仝一ノ場處ニ

登記シ得ヘキナリ登記換ノタメニ生シタル諸費用就中無制限ニ執行シ得ヘキ公浄屑ヲ得ルニ付テ生シタル費用及ヒ登記換ノ請求ヲ起スニ付テ生シタル代言人ノ報酬ニ至テハ唯登記換ヲ行フノ前ニ於テ他ノ書入要求ノ登記アラサリシ場合ニ於テ然ルヲ得ヘキノミ若シ其登記換ノ前ニ於テ他ノ屑入要求ノ登記アリタリトセハ是等新規ノ費用ハ其性質ニ於テハ権制執行ノ費用ナルモ豫防登記ノ中ヨリ現ハレサルカ故ニ他ノ書入要求ノ後ヘニ於テ更ニ別段ノ番号ヲ設ケ以テ之ヲ登記セサルヲ得サルナリ

但シ第六條第二ノ註釋ヲ参照スヘシ

司法省

説明ニ於テハ猶本條第二段ノ訴訟法第六百七十二條第二段ニ対スル関係ヲ考査シテ以為ラク訴訟法ノ該規程ハ係訟ヲ差出サスシテ豫防登記ヲ行フヲ障碍セス其故タル訴訟法第七百五十七條第二段ハ地所臺帳ニ於ケル登記ヲ以テ権制執行ト見做サスシテ各邦法律ニ於テ始メテ之ニ其性質ヲ與ヘタレハナリ第三條ノ註釈ヲ参照スヘシト此説下院ノ委員會ニ於テ同意ヲ得タリ

第八條

第一要求ノ名義ノ中何如ナルモノニ付テ執行シ得ヘキ公浄屑ヲ與ヘ得ヘキカハ第六條第一

ノ註釈ヲ参照スヘシ又執行シ得ヘキ公浄書ヲ共フルモノハ第一裁判ニ在テハ初審ノ裁判所ノ書記若クハ其事件ニシテ高層ノ裁判所ニ提出中ナルトキハ其高層ノ裁判所ノ書記ナリトス

訴訟法第六百六十二條第二段若シ控訴落着シテ一件書類ノ初審判事ノ許ニ復帰シタル後ニ至テハ其一件書類ノ中ニ只控訴裁判所ニ於テ下シタル裁判ノ公認アル謄本ヲ見ルノミ訴訟法第五百六條第二段ニシテ其原本ハ則チ控訴裁判所ニ於ケル一件書類ノ中ニ留マルモノナレモ此際ニ於テ執行シ得ヘキ公浄書ヲ共フルモノハ尚其初審ノ裁判所ノ書記タルヘク即チ

書記ハ右ノ謄本ニ據テ其公浄書ヲ共フヘキナリ而シテ其公浄書ハ書記ノ署名、書記タルノ官名及ヒ裁判所ノ印章ヲ要スルモノトス區及ヒ地方裁判所書記事務章程第十一條二條勿論補助書記モ亦千八百七十九年三月三日制可ノ裁判所書記権限法第五條ニ照準シテ執行シ得ヘキ公浄書ヲ共フルノ権アルナリ第二他ノ執行シ得ヘキ諸証書訴訟法第七百二條ニ在テモ全シク亦前上ト同様ノ振合ニ由テ初審ノ裁判所ノ書記之ニ任ス第三執行シ得ヘキ公証々書ニ在テハ公証人之ニ任ス盗シ公証人ハ訴訟法第六百六十四條五條ノ場合ニ於テモ裁判長ノ處理ナ

クシテ執行シ得ヘキ公浄眉ヲ共ヘ得ヘキナリ
但シ千八百四十五年七月十一日制可ノ公証規
則第三十七條乃至三十九條ニ依リ或ル官廳ニ
於テ公証々書ヲ保藏スル限リハ其官廳之ニ任
スヘク訴訟法第七百五條シテ其官廳ノ書記之
ニ任セサルナリ第四中裁人ノ和解ニ在テハ中
裁人之ニ任ス但シ其中裁人ハ訴訟法第六百六
十四條五條ノ場合ニハ其區裁判所ノ處理ニ依
ラサル可ラス中裁人規則第三十二條若シ執行
シ得ヘキ公浄眉ノ法律規則ニ悖リテ其ノ之ヲ
共フヘキ管轄ノ吏員ヨリ出テタルニ非ルトキハ
登記ヲ行フヲ得サルナリ又其ノ定マリタル方

司法省

式ニ據ラサルトキモ同断トス而シテ是等ノ辺ニ
注意ヲ致スハ地所臺帳判事ノ職務ナリ
要求ノ名義ノ執行シ得ヘキ公浄眉ヲ添ヘス或
ハ其欠点アル公浄書ヲ添ヘテ呈出セラレタル
請求ハ毫モ法律上ノ効果ヲ得ルモノニ非ス就
中地所得有法第十七條第一段ニ於テ請求ノ呈
出ニ附着セシメタル効果ヲ得サルナリ蓋シ此
効力ヲ生スヘキモノハ依テ以テ直チニ登記ヲ
行ヒ得ヘキ請求ノミ其際或ハ地所臺帳判事ヨ
リ期限ノ許容アルモ以テ寸益ナカルヘシ然レ
モ若シ執行シ得ヘキ公浄眉ハ完全ノモノヲ以
テ添ヘラレタルモ唯本條第二段ニ掲ケタル証

昏ヲ欠クノ場合ニ至テハ以テ昏ハ登記ノ請求ニ應スルニ足ラサルモ尚以テ直チニ豫防登記ヲ行フヘキヤ否ヤ是レ一問題トス本文ニ因テ之ヲ推スニ本條ニハ登記ヲ許スト云ヒ第七條ノ文言ト相違アルヲ見レハ此問題タル蓋シ否定スヘキモノヽ如シ則チ別ニ豫防登記ノ請求アルヲ俟ツヘキナリ然ルカ故ニ又此豫防登記ノ請求ノタメニ最初昏ハ登記ノ請求ヲ呈出シタルノ時ニ依テ登記ノ順番ヲ定ムルヲ得ス

第二 為替負債ハ裁判ヲ以テ其ノ義務ヲ確定セラレタル為替負債主ニ付テモ其ノ真正ノ負債原因タル性質ヲ變セサルモノナレハ其手形ノ負債原因ノ存立ニ於ケルヤ貸借証文ノ貸借ニ於ケルカ如ク啻ニ一証據品タルニ止マルモノニ非ス故ニ既ニ後前ニ於テモ手形ノ呈供ハ欠クヘカラサリシナリ之ニ反シテ拒ミ証昏ハ呈供スヘキノ限リニ非ス

第三 以前ノ登記ノ同ク権制執行ニ由リタリモ将タ任意ニ出テタリモ又其ノ仝一ノ負債主ノ地所ニ係ルモ将タ共同ノ義務アル第二負債主ノ地所ニ係ルモ此等ノタメニ區別ヲ生セサルナリ故ニ附帶ノ義務者例ヘハ保証人ニ於テ第三人即チ本義務者ノ登記有ノ負債ヲ弁償スヘキ義務アリトノ裁判ヲ受ケタル場合ノ如キモ

亦之ニ属セリ要スルニ此規程ノ主意ハ地所臺帳法第百二十五條ノ目的ヲ固ク貫行スルニ在ルヽニ以前ノ登記ニ付テ地所屆入券ノ調製アリタルヤ否ヤ地着負債券ノ調製ハ固ヨリ之ヲ辞スルヲ得ス地所臺帳法第百二十二條ハ多ク執行シ得ヘキ名義ノ中ニ於テ明ナラン然レモ是レ必ス其中ニ明ナラサル可ラサルニ非ス何トナレハ從前ノ處分ニ依ルキハ今後ニ付テハ本法律第九條第三段ヲ参照スヘシ登記ノ了ヲ負債ヲ表スル証眉ニ記載スル了ヲセス又將来ト雖モ其ノ調製セラレタル眉入券ヨリ要求ノ名義ヲ割離シテ以テ以前ノ登記ヲ隱蔽スル了ナシトスヘカラサレハナリ而シテ地所臺帳判事ニ於テモ以前ノ登記ニ付キ果シテ眉入券ノ調製アリタルヤ否ヤヲ官吏ノ職務上ヨリ査確スルノ義務アルニ非ス但タ該券調製ノ之アリシ了判然セルニ拘ラス債主ノ之ヲ呈出セサルヲ許サヽルヘキノヽ、一地所ノ已ニ抵当ニ入リタルニ更ニ又一地所ヲ其抵当ニ追入スルキハ地所臺帳法第七十八條ニ依テ其旨ヲ最初抵当ニ入レラレタル地所ノ上ニ記載スルヲ要スルナリ然レモ之カタメ敢テ最初ノ登記ニ付テ眉入券ヲ調製シタリシ場合ニモ其中ニ之カ補記ヲナスヲ須ヒス又之ヲ調製セサリシ場合ヒモ

更ニ之ヲ追調スルヲ須ヒス（地所臺帳法第百二十九條ヲ精察スヘシ）若シ本條ノ規程ニ反シ最初ノ書入券ヲ呈供スル〻ナクシテ冒入要求ヲ登記セシメタリトスルモ以テ其冒入要求ノ効カハ變動ヲ受クル〻ナシ然レモ其債主ハ之カタメニ生スル損害ニ付キ責任ヲ有スルナリ兎ニ角要求ノ名義ノ執行シ得ヘキ公淨冒トアレハ皆據テ以テ登記ト書入券ノ調製ヲ得ラルヽカ故ニ第二ノ執行シ得ヘキ公淨冒ヲ供フル（訴訟法第六百六十九條）ニ付テハ大ニ戒慎ヲ要スヘキモノアリトス何トナレハ負債主若シ二重ノ請求ヲ受クルモ讓受人ニ対シテハ唯地所得有法第三十八條第二段ノ保庇ヲ蒙ムルノミニシテ即チ実意ノ讓受人ニ対シテハ物上ノ義務アレハナリ

（第四）説明ノ之ニ付テ言フ所左ノ如シ曰ク要求ノ名義ノ執行シ得ヘキ公淨冒ハ書入要求ノ登記ヲ請求スルノ際ニ呈出スヘキ負債ヲ表スル証冒ヲ代弁スルモノナリ又該証冒ハ調製シタル冒入券ト連結セシメサルヘカラス（地所臺帳法第百二十二條）故ニ猶要求ノ名義ノ基ク所ノ証冒ヲ呈出シ又連結セシメントスル（千八百三十四年三月四日付ノ法令第二十二條第二段）ハ概シテ無要ノ〻ト云フヘシ且之カタメニ手数

ヲ生スル丁少カラサルヘシ独リ無記名証券為替券其他指圖拂ニシテ裏書ヲ以テ依轉シ得ヘキ証券共ニ既ニ存在セル地所書入券地着負債券ニ付テハ特別ノ規程ヲ設ケサルヲ得ス蓋シ此等ノ証券タル若シ之ヲ新規ノ登記ニ付テ調製スヘキ地所書入券ト連結セシムル丁ナクンハ負債主ハ往々二重償却ノ危険アラン何トナレハ其ノ右等証券ノ後生ノ得有者ニ対シテ有スル答許権ハ甚タ狹隘ナレハナリ因テ之ヲ請求ニ添ヘテ呈出シ且登記ニ付テ調製スヘキ書入券ニ連結スヘシトセリ勿論之ヲ呈出シテ書入券ニ連結セシメサルモ唯豫防登記ヲ許サルヽニ過キサルノミ而シテ是レ既ニ負債主ノタメ必要ノ保護ヲ致スモノト云フヘシ

司法省

第五 借債主ニ於テ前上ノ規程ヲ履マサルヨリ取取ヘス先ツ豫防登記ヲ請求スルノ已ムヲ得サルニ至レリトセンニ其登記ト共ニ亦登記ノ費用及ヒ登記ノ請求ヲナシタルニ付テ生シタル未タ確定ヲ受ケサル代言人ノ報酬ヲモ登記スヘキヤ否ヤハ此等ノ費用ヲ執行ノ費用中ニ箕入スヘキヤ否ヤ即チ之ヲ訴訟法第六百九十七條ノ規程ノ下ニ立タシムヘキヤ否ヤニ因テ決スルナリ

第六條 第二ノ註釈ヲ参照スヘシ既

ニ該條第二ノ註釈ニモ云ヒシ如ク皇室裁判所ハ之ヲ彼規程ノ下ニ立タシムル「ヲセスシテ乃チ先ツ訴訟判事ノ確定ヲ受クヘシトセリ蓋シ此説タル他ノ賛同ヲ博シタルモノニ非スト虽モ然レモ後来ニ於ケル登記換ノ費用ノ一点ニ付テハ其当ヲ得タリトセサルヲ得ス何トナレハ此費用タル素ト決シテ権制執行上ノ必要ナル費用ニ属スルモノニ非サレハナリ蓋シ債主ニシテ確定登記ヲ得ルニ必要ナル証書ヲ呈出スル「能ハスンハ其咎自身ニ在ラサルヲ得ンヤ兎ニ角此費用ノ要否ニ付テハ之ヲ審理ニ係ケサルヲ得ス而シテ之ヲ審スヘキモノハ地所臺帳判事ニ非スシテ訴訟判事トス故ニ登記換ノ費用ハ必ス先ツ之カ確定ヲ経タルカ上之ヲ登記スルヲ得ルナリ

第九條

第一 債主ニシテ書入要求ヲ登記スルノ請求ニ於テ書入券ノ調製ヲ辞謝シタルニ非ル限リハ皆是ノ如クセラル、ナリ之ニ付キ地所臺帳法第百二十二條ヲ参照スヘシ蓋シ爰ニ書入券ヲ債主ニ交付スヘシト特ニ規定シタル所以ハ此種ノ場合ニ於テハ之ヲ何人ニ交付スヘキヤノ規程アル「ナク千八百七十九年三月四日制可ノ法律第二十二條ヲ参照スヘシ且地所臺帳法

第百二十二條ノ第一文言ニ依ルトキハ却テ該券ヲ地主ニ交付スヘキカト思考セシムレハナリ果シテ此ノ如クンハ債主ノ利益トナルヿ甚タ薄シト云ハサルヘカラス然リ而シテ本條ノ此規程タル決シテ之ヲ債主自身ニ交付セサルヘカラスト解スヘキニ非ス乃チ債主ノ代理者ニ之ヲ交付スルモ不可ナル所ナク却テ是レ例常ノ丁ナルヘシ加之債主ハ其請求ニ於テ総テノ他人ヲ冒入券ノ受取人ナリト指定スルノ自由アルナリ且請求ニ公認ヲ得ル丁地所臺帳法ノ規程ニ從フトキハ此場合ニモ必要ナルヘシト虽モ今ヤ乃テ之ヲ要セサルナリ

第十二條第二段ヲ参照スヘシ

又何如ニシテ交付ヲ行フヘキカノ一義ニ付テハ千八百七十九年八月一日制可ノ區裁判所冒記事務條例第十八條第三段及ヒ裁判執行吏事務章程第四十四條ヲ参照スヘシ

○本條第四段ノ規程ニ從テ債主ニ通知ヲナスハ其際ニ冒入券ノ調製アリタルト否トニ拘ラス必ス之アルヘキモノニシテ又負債主トハ毎ニ負債主ト仝一人タルヘキ登記済ノ地主ヲ云ヘルモノト了解セサルヘカラス是故ニ数名ノ連関義務者ニ係リテ執行シ得ヘキ要求ノ其義務者中ノ一人ノ地所ノ上ニ登記セラルヽ丁アリテモ地所臺帳判事ハ他ノ共同義務者等ニモ其

ノ利益ノ関係ヲ有スルニ拘ラス登記アリタル
コトヲ通知スルノ義務ナキナリ但タ既ニ地所一
件書類ノ中ニ差出サレタル登記ノ請求ノ未タ
決着セサルニ先チ地所ノ明渡アルノ場合ニ至
テハ新地主ニモ亦負債主ニモ通知ヲナシテ然
ルヘシト思ハル其他現今ハ此通知ニ付キ千八
百七十八年六月十八日制可ノ独逸裁判費用法
第七十九條第八十條及ヒ千八百七十九年三月
十日制可ノ詳定規則第二十一條ニ照準シテ費
用ノ義務ヲ生スルナリ

第二 是レ通常ノ覆分ト相違セリ何トナレハ昏
八券ノ調製ヲ辞謝シタル場合ニハ負債ヲ表ス

司法省

ル証昏ノ上ニ何モ記載スル所ナケレハナリ然
ルニ権制登記ノ場合ニ付テ之ト反対ノ規程ヲ
立テタル所以ハ事ノ簡畧ナルヲ主トシテ地所
臺帳法第百二十三條ノ規程ニ於テ要スル如ク
債主ニ特別ノ通知ヲナスヲ省カンカタメナル
モノヽ如シ然リ而シテ斯ク出来シタル証昏ハ
決シテ書入券ニ類スルカ如キ取扱ヲナスヘキ
モノニ非ス即チ之ヲ呈出セスンハ執行上ノ昏
入券ヲ追製例ヘハ譲渡
ヲ消除スルヲ得ス昏入券ヲ追製例ヘハ譲渡
ノ場合ニ於テ然ル如クセシムルヲ得スト云ヘ
ル如キ「アラサルナリ又此記載タル能ク其主
意ニ適セシメンカタメ地所臺帳法第百二十三

條登記ノ文言ヲ毎字掲出セサルヘカラス、負債主ヘノ通知ハ地所臺帳法第百二十一條ニ適合スルヲ要スルナリ、説明ニハ本條ノ主意ヲ述ヘテ曰ク登記ノ了ヲ執行シ得ヘキ要求ノ名義ノ上ニ記載スルハ畧ホ一部分ノ支拂アリタル場合ニ於テ其受取ヲ要求ノ名義ノ上ニ記載セレムル訴訟法第六百七十七條ト同ク債主ヲ保護スルノ主意ニ出ツルナリ又要求ノ名義ハ此記載アルモ真正ノ地所帰ハ券タル性格ヲ得ルモノニ非スト

第十條

第一 此規程ハ既ニ千八百七十八年ノ草案ニ於テモ之アルモノニシテ其説明ノ言フ所左ノ如シ曰ク今般改新シタリシ点ハ差押ノ登記ニ依テ特権ヲ起生スルニ在リ則チ此目的ノタメ差押ノ登記ヲシテ豫防登記ニ変更セシメタリ本案ノ此点ニ於ケル実ニ動産ノ差押ニ関スル訴訟法ノ規程訴訟法第八百十條十一條ニ從ヒタルモノナリト最後ノ草案ノ説明ニ至テハ尚大ニ之ヨリモ著明ナルモノアリ其言ニ曰ク訴訟法第八百十條ニ於テ動産ノ差押ニ特権ヲ起スノカヲ與ヘタル以上ハ該法第八百十一條ヲ以テ各邦法律ニ推委セラレタル不動産差押ノ執行ニ関スル規程ヲ今爰ニ立ツルニモ亦此ノ如

クスルヿ蓋シ推理ノ正ヲ得タルモノト思ハル
ヽナリ夫レ差押ナルモノハ独リ唯金銭ノ要求
若クハ金銭ノ要求ニ轉換シ得ヘキ要求ノタメ
ニ之ヲナシ得ヘキモノニシテ而シテ差押ノ命
令ニハ必ス金高若クハ金價ヲ掲ケサル可ラサ
ル訴訟法第七百九十六條第一段第八百條第一
段カ故ニ今此ノ如クスルモ決シテ地所臺帳法
ノ封域内ニ不都合ヲ生スルノ虞アルヿナシ、斯
クノ如ク差押ヲ以テ特権ヲ起生セシメタルヿ
ヲ地所臺帳上ニ現出スルノ式様ハ即チ要求登
記ノ権ヲ保持スルカタメニスル豫防登記ト仝
一タルヘキナリ千八百七十二年五月五日制可

ノ法律第二十二條第三段是ヲ以テ其ノ地所臺
帳上ニ於テ有スヘキ場所ハ若シ其確定登記ア
ラハ同ク亦其場所ヲ有スヘキ所ノ第三區ニ於
テスルモノトスト
抑モ孛漏斯法ハ既ニ千八百七十二年ノ地所臺
帳ニ関スル両法律ノ制定以前ニ於テ二種ノ差
押ノ登記ヲ知リシナリ此ノ差押ノ登記タル其
先定要件ト効果ニ於テハ互ニ相異ナレ𪜈実際
ニ於テハ均シク之ニ差押ノ名称ヲ下シタリ而
シテ其二種ノ差押ノ登記トハ一ハ正格ノ差押
ノ登記ニシテ即チ訴訟判事ニ差押ノ理由ヲ信
認セシメタル後対人権保全ノタメニ登記ヲ行

ヒ差押請求者ハ以テ後ニ生シタル執行上ノ昏
八要求ニ対シテ地所臺帳上ニ特権ヲ得ル丁能
ハサルモノヲ云ヒ又一ハ爰格ノ差押ノ登記ニ
シテ即チ凡ソ差押ノ理由ナルモノハ毫モ之ヲ
先要トスル丁ナク却テ昏入ノ登記ニ依テ保全
ヲナシ得ラルヘキモ未タ之ヲ実行スル丁能ハ
サル権理ノ存在スルヲ先要トスルモノヲ云フ
故ニ第一種ハ唯地主ノ爰辯権ヲ制限スルモノ
ニ過キスシテ猶旧法ニ於ケル動産ノ差押ノ如
ク後来ノ差押請求者若クハ執行請求者ノ権理
ト抵牾ヲ生スヘキモ第二種ニ至テハ其ノ一旦
獲得シタル地所臺帳上ノ場所ニ占據シテ未必

ノ書入要求ヲ生シ後来他ノ債主ノ競争ヲ容サ
ヽルナリ是レ之ヲ両者ノ區別トス然ルニ両者ノ
実際上其ニ理論上ニ於テ屢々混一セラレタル
丁アリシハ他ナシ其均シク差押ノ名称ヲ冒シ
テ地所臺帳上ニ若クハ登記セラレタリシニ由ル
ナリ勿論全体ノ上ヨリ之ヲ見ルトキハ両者ノ區
別ハ夙ニ可認セラレタル所ナリシ既ニシテ千
八百七十二年五月五日制可ノ地所臺帳ニ関ス
ル両法律ニ於テ理義ノ安固ヲ欠ケル豫防登記
ナルモノヲ制置シタルヤ又其所謂豫防登記ト
ハ差押ノ登記ノ正格爰格孰レヲ指スヤ或ハ両
者ヲ兼子テ之ヲ合称スルモノナルヤノ点ニ争

議ヲ生シ今日ニ至ル迄未タ断乎タル決着ヲ見ルヿ能ハサルナリ然レモ多数ノ意見ハ豫防登記ヲ以テ其効果光ニ先定要件ニ於テ独リ変格ノ差押ノ登記ニ代リタルモノトスルニ傾キ隨テ亦其効果ヲ見ルヿ登記セラレタル差押ヨリモ大ナリトス蓋シ其当ヲ得タルモノト云フヘシ

元来右争議ノ本領タルヤ差押ハ後来ノ執行上ノ書入要求ニ対シ又不動産権制糶賣ノ際ニ於テハ執行請求者及ヒ執行加入者ニ対シテモ豫防登記ノ如クニ特権ヲ起スヤ否ヤノ問題ニ在ルナリ而シテ此問題ハ田上等法院ノ第三部第四部ノ間ニ議論ヲ生セシメタルモノナルハ世ノ知ル所タリ然レモ大ニ実際ノ指針トナルヘキモノハ独逸帝國裁判所ノ断定ナリト云ハサルヲ得ス該裁判所ハ千八百七十九年十一月二十二日付ノ判決ヲ初トシテ爾後毎々一様ノ判決ヲ下シ其判決ノ旨意ハ即チ田独逸上等商事裁判所ト同ク差押ニ只夏弁制限ノ効果ヲ許シ則チ差押ヲ以テ独リ普通裁判規則第一編第二十九券第八十三條ノ規程ニ照準シテ後ニ生シタル約定上ノ昏八要求ニ対シテノミ特権ヲ起スニ足ルモノトシ而シテ豫防登記ハ諸種ノ後ニ生シタル登記ニ対シテ其地所臺帳上ノ場處

ト之ニ付着スル特権ヲ保全スル所以ナリトテ其間ニ區別ヲ立テラレタリ然リト雖モ争議ハ未タ是ヲ以テ終結スルニ至ラスシテ之カ反対論モ尚少カラサルナリ是時ニ際シテ本法律ノ出テ此革十條ノ規程ノ立チタルハ少クモ將来ニ向テ亦争議ノ決着ニ甚タカヲ添ヘタルモノト称スヘシ夫レ立法者ノ此規程ヲ設クルヤ前掲ノ説明ニ徴スルモ知リ得ヘキカ如ク独逸帝國裁判所ニ於テ執持セル所ノ從来ノ法ニ於ケル登記セラレタル差押ハ其効果ニ於テハ豫防登記ト同様ナルニ非ス寧ロ唯嘗テ動産差押ノ然リシ如ク普通裁判規則革一編革二十九劵革

一條八十一條八十三條八十七條ニ照準シテ處辨制限ノ効カヲ有スルニ過キスト云ヘル其見説之カ起由トナリタルナリ而シテ現在法律ノ精神ハ差押ノ効果ノ動産ト不動産ニ隨テ區別アルカ故ニ其區別ヲ除却スルニ在リト知ラレタリ其理由タル訴訟法ニ於テ差押ノ質取ニ付スルニ真実ノ抵当権ヲ以テシ以テ此場合ニモ亦時間先ンスレハ権理優ルト云ヘル原則ヲ実行シタルヨリハ同ク損害ノ虞アル債主ノ不動産ニ係リテハ同ク要求ノ保全ヲ得ルヿ能ハサルハ法制ノ欠典ト云ハサルヲ得サレハナリ而シテ差押ノ命令アレハ據テ以テ豫防登記ヲ行

フヘシトノ規程ハ実ニ此趣旨ヲ達シタルモノト称スヘシ何トナレハ豫防登記ヲ得タル債主ハ乃チ未必ノ冒ハ要求権ヲ得タルモノニシテ其ノ占據シタル地所臺帳上ノ場處ニハ毫モ後来ノ登記ヲ容レサレハナリ是故ニ田時ニ於テハ差押ト云ヘル名称ノ下ニ事柄ノ相違スル両種ノ拒障（プロテタンス）ヲ包含セシメタリシモ今ハ復タ豫防登記ト云ヘル名称ノ下ニ之ヲ一括シタルモノト云フヘシ但タ今ハ其區別ノ最早効果ノ点ニ存セスシテ只猶先定要件ニ於テ之アルノ差異アルノミ然レモ其區別タル訴訟判事ノ考究スヘキ區域ニ在ルカ故ニ爰ニ之ヲ論明スヘキニ非ス

司法省

第二 此際地所臺帳判事ハ左ノ事項ヲ記臆スヘキナリ

（一）差押ノ命令ハ只希ニ即チ其発付ノ後債主若クハ負債主ノ一方ニ於テ権義ノ継続アリタルトキニ限リテ執行ノ付冒ヲ要スルノミ訴訟法第八百九條第一段故ニ通常ハ差押ノ命令ヲ送達証書ト共ニ発付スレハ則チ足ルナリ

（二）差押ノ命令ノ告示セラレタル日若クハ其ノ之ヲ請求シタリシモノニ送達セラレタル日ヨリ二週間ヲ空過シタルトキハ其執行ヲ許

サス（訴訟法第八百九條第二段）而シテ差押ノ命令ノ告示ハ差押ノ請求ニ付キ差押裁判所ニ於テ口頭上ノ審問ヲナシタル場合ニ於テハ即チ甚タ希ニ之アルモノニシテ其ノ之アリタルトキハ告示ノ付属ニ於テ判然タルヘク又該命令ヲ債主ニ送達シタルノ時日ハ該命令ニ付隨セシメタル、送達証書ノ謄本ニ於テ判然タルヘキナリ（裁判所執行吏事務章程第百一條）前上二週ノ期限ニハ告示若クハ送達ノ日ヲ算入セス（訴訟法第百九十九條）又其期限ハ休暇ノタメニ中断セラレサルナリ（裁判所編制法第二百四條）

司法省

然レモ権制登記ノ場合ニ於テハ何ヲ以テ差押ノ命令ノ執行ト称スヘキカ是レ甚タ疑惑ヲ存スルナリ蓋シ之ニ付キ三種ノ説ヲ立ツルトヲ得ヘシト思ハル即チ或ハ二週間内ニ登記ノ請求ヲ地所臺帳判事ノ前ニ（裁判所編制法詳定規則第三十一條第二段ヲ参照スヘシ）少クモ呈出セサルヘカラストナシ得ヘク或ハ其期限内ニ於テ既ニ登記ノ裁可ナカルヘカラストナシ得ヘク或ハ又事実上已ニ登記済ニ至ラサル可カラストナシ得ヘキナリ而シテ「ゾイフェルト」ノ如キハ第一説ヲ主張セリ是レ実際上ノ思考ニ依ルニ無論其当ヲ得タルモノナラサルヘカラサ

ルハ暫ク論外ニ置ク

モ登記ノ請求ヲ地所一件昏類中ニ呈出スルト裁判所執行吏ノ許ニ於ケル一件昏類中ニ呈出ヲナストハ其効果ニ於テ大差アルヿヲ顧慮セハ其理由自ラ明ナラン蓋シ彼ニハ核実上ノ効果ノ法律ヲ以テ付着セシメラルヽアリ地所得有法第十七條第三十四條故ニ其呈出ノ受承ハ已ニ以テ執行機官ノ総動作中ノ最初ノ事行ト見做スヲ得ヘキモ裁判所執行吏ノ債主ヨリ執行ヲ委托セラレタル場合ニハ固ヨリ是ノ如ク見做スヿ能ハサルナリ即テ其執行ノ請求ノ受承ニハ未タ毫モ法律上ノ効果ノ付着スルヿアラサル裁判執行吏事務章程第八十五條ヲ以テ亦未タ之ヲ執行ノ発端トスルヲ得ス案スルニ嘗テ千八百五十五年五月八日制可ノ分散法第十條ニ付テモ本問題ト大体ニ於テ同様ナル問題ヲ生シタルヿアリ即チ其問題ハ登記ノ請求ノ地所一件昏類中ニ呈出セラレタルハ分散開始ノ以前ナリシモ判事ノ裁可ヲ経タルハ其以後ナリシヽハ之ヲ許スヘキヤ否ヤト云フニ在リ当時上等法院ハ凡ソ裁判所ノ動作タル呈出ノ受承ヨリ以テ登記ノ施行ニ至ル迄之ヲ概括シテ一貫ノ事行ト了解セサルヘカラストノ主意ヲ以テ該問題ヲ然定セラレタリ思フニ推理ノ正ヲ得タルモノト云

フヘシ而シテ是ノ如ク了解スルヤハ訴訟法第八百九條ノ規程ニ付テモ亦呈出ノ時ニ重キヲ置カシムヘシト云フニ至ルナリ

第三 保全スヘキ金額ハ差押ノ命令ニ於テ確定セラレタルモノヲ限リトスヘク其以上ニ昇リテ債主ノ登記ノ請求ニ應スヘカラサルナリ是レ登記ノ費用及ヒ其後行フ所ノ登記換ノ費用ニ付テモ然リトス故ニ債主ハ地所ニ係ル差押ノ命令ヲ得ントスルヤニ於テ其差押ノ命令中ニ掲ケシムヘキ費用ヲ箕定スル際ニ登記換ノ費用ヲモ豫箕シテ之ヲ付ケ出シ必要ノ場合ニハ亦之ヲ訴訟判事ニ信認セシメサルヘカラ

サルナリ或ハ偏ニ訴訟法第六百九十七條ヲ以テ之ヲ推スヤハ豫防登記ハ輙チ登記ノ費用ニ迫及ホスヘキモノヽ如ク考ヘラルレモ保全スヘキ金額ト云ヘル數語ニ依テ其ノ然ラサルハ自ラ明了ナラン、豫防登記ヲ冒入要求ニ登記換スルニ当リ費用ノタメニモ確定ノ登記ヲ得ントセハ之カ執行シ得ヘキ確定ノ決議ヲ呈出スルヲ要スルナリ而シテ其ノ確定セラレタル費用ニシテ差押ノ命令中ニ掲ケラレタル概箕ヲ出テサルヤハ之カ登記換ヲ行ヒ若シ其概箕ヲ出テタルモノハ別ニ第六條ニ拠テ新規ノ登記ヲ行ハルヽモノトス

第十一條

第一 即チ地所臺帳判事ノ此ノ如キ場合ニ於テル一ニ訴訟法ノ規程ニ由ルヘシト云フナリ而シテ訴訟法ノ規程トハ其第六百九十一條二條ヲ指スモノトス此規程ニ依ルニ権制執行ノ休止ニハ既ニ行フタル執行ノ措置ヲシテ尚暫ク存立セシムルト廃止セシムルトノ両様ノ効力アルナリ然レモ負債主ノ昏入要求若クハ豫防登記ノ消除ヲ請求シ得ルハ唯其休止ノ第二ノ効力ヲ有スル場合ノミ此場合タル甚タ繁多ナリト雖モ大凡ソ之ヲ左ノ三種ニ歸宿セシムルヲ得ヘシ

其一 ○裁判所ノ裁定ヲ以テ権制執行ノ確定廃止ヲ宣告シタル場合此場合ハ執行スヘキ裁判自身若クハ裁判ノ假執行カノ後ニ下サレタル裁定ニ依テ廃止セラレタルカ又ハ権制執行ヲ不当ノモノト裁定セラレ若クハ権制執行ノ一時休止ニ非スシテ其真ノ休止ノ命セラレタルキヲ云フ而シテ権制執行ヲ不当ノモノトシ若クハ権制執行ノ休止ヲ命スルハ高層ノ裁判所ノ原裁判ヲ変更スルノ裁判並ニ故障裁判所ノ裁定ヲ以テスルナリ斯ク権制執行ノ確定廃止ヲ命スル裁定即チ據テ以テ消除ヲ行フヘキ裁定ニ付テハ地所臺帳判事ニ於テ毎ニ左ノ両項

ニ注意セサルヘカラス第一必ス其公淨眉ノ呈出セラルヘキ」第二其ノ執行シ得ヘキモノタラサルヘカラサル」即テ是ナリ此第二項ニ付テハ裁判所執行吏事務章程第五十九條ニ於テ本條ノ此場合ニモ適切ナル左ノ訓規ヲ與ヘタリ

假ニ執行シ得ヘシト明言セラレタル裁定若クハ確定ニ至リタル裁定ハ執行シ得ヘキモノトス確定ノ効力ヲ其証認訴訟法第六百四十六條ナキニ之アリト推定スルハ独リ地方裁判所ノ其控訴審タル資格ヲ以テ下シタル裁判及ヒ上告裁判所ニ於テ下シタル裁判ニ於テ然ルヲ得ルノミ此等ノ裁判ト虽モ其ノ欠席裁判タルキハ亦確定効力ノ証認ナカルヘカラス

故障裁判ニ於テ下シタル裁定及ヒ只假ニ執行シ得ヘキ裁判若クハ裁判ノ假執行カヲ廃止スル裁定ハ何如ナル場合ニ於テモ以テ権制執行ヲ休止セシムルノ理由トスルニ適ス

此第二段ニ所謂只假ニ執行シ得ヘキ裁判若クハ裁判ノ假執行カヲ廃止スル裁定ハ訴訟法第六百五十五條第一段ニ照準シテ毎ニ即チ之ヲ執行シ得ヘク特ニ其旨ヲ明言セラルヽヲ要セ

サルナリ此義説明ニ於テモ之ヲ是認セリ故障裁判所ノ裁定ニ付テハ訴訟法第七百二條第三項ニ隨フヘシ何トナレハ此裁定ニ対シテモ亦復タ故障（所謂以上ノ故障）ノ一上訴方アルノミナレハナリ其他ノ裁定ニ至テハ以テ消除ヲ請求スルノ理由トナサントセハ必ス執行シ得ヘキモノト明言セラルヽカ若クハ確定ノ効力アルヲ要スルナリ而シテ執行シ得ヘキ裁定ノ公浄昏ノ裁定ノ執行シ得ヘキ公浄昏ト自ラ差異アル「ニ付テハ「ウィルモウスキー」「レウィー」合著訴訟法注釈第六百九十一條第二ノ解ヲ参照スヘシ蓋シ此ハ執行ノ付昏ヲ有スルモ彼ハ之ヲ有セス

其二〇石等ノ裁定ト相反スルモノハ権制執行一時休止ノ命令トス此命令ハ裁判ヲ以テスルモノニ非スシテ即時ノ故障ニ由テ攻撃シ得ラルヘキ決議ヲ以テスルモノナリ其ノ以テ消除ヲ請求スルノ理由トスルニ足ルハ其中ニ從来ノ執行ノ措置ヲ廃止スヘシト明言セラレタル場合ニ止マレリトス（訴訟法第六百九十二條）然リ而シテ恰モ此両種ノ裁定ノ中間ニ位スルモノハ訴訟法第六百八十八條第六百九十條第三段第六百九十六條第三段ニ據テ下シ得ヘキ裁定ナリ即チ其裁定ニ在テハ訴訟法第六百四十

七條ニ於ケルモノト相反シテ一時休止ト云ハスシテ唯休止ト云ヒ而シテ又休止ノ効力ノ訴訟法第六百九十一條第一項第六百九十二條ニ照準シテ既ニ行フタル執行ノ措置ノ廃止ヲモ惹起スヘキヲ制限シテ其廃止ヲ行フニ付テハ保証ヲ差出スヘシトセラレタリ故ニ訴訟判事ハ何如ナル場合ニ於テモ既ニ行フタル執行ノ措置ハ保証ノ差出ヲ得タル上ニテ乃チ之ヲ廃止スヘシトノ付記ヲ用ヒスシテ止ム可ヲ得サルヘシ就中其ノ執行ノ措置例ヘハ即チ登記ノ既ニ之アリタル可ヲ自ラ知ラス又負債主ニ於テモ黙シテ之ヲ告ケサルヲ得ル場合ニハ殊ニ

然ルナリ因テ問題ノ在ル所ハ訴訟法第六百八十八條ニ據テ下シタル執行休止ノ裁定ノ該付記ナクシテ呈出セラレタルトキハ地所臺帳判事ハ何如ニ之ヲ處スヘキヤト云フニアルノミ蓋シ裁判所ノ実際ハ決シテ未タ何如ナル場合ニテモ即チ既ニ執行ノ措置アリタル可ノ明瞭ナラサル場合ト雖モ必ス該付記ヲ用ユヘシト云フ迄ニ固定セサルナリ乃チ訴訟法第六百九十一條第一項及ヒ第六百九十二條ニ據テ之ヲ推スニ或ハ制限ヲ付セスシテ執行ノ休止ヲ命セラレタルトキハ消除ノ請求ニ應スヘキコソ当然ナルモノヽ如シ然レモ訴訟法第六百八十八條

ニ於テ既ニ行フタル執行ノ措置ヲ廃止スルニ
ハ必ス保証ノ差出アルヘシト云ヒ而シテ地所
臺帳判事ハ本條ノ汎然訴訟法ノ規程ヲ指示ス
ルニ依テ亦該六百八十八條ヲモ顧慮セサルヘ
カラストセハ其請求ニ應セサルヲ以テ正当ト
云フヘキナリ既ニ行フタル執行ノ措置ヲ廃止
スルニハ訴訟法第六百四十七條第六百五十七
條ノ場合ニ於テモ亦保証ノ差出ヲ要セリ然レ
モ是等ノ場合ニ於テハ只権制執行ヲ一時休止
スヘシトノ明文ナルカ故ニ該付記ヲナサヽル
モ危険少ナシトス

其三○其他権制執行ヲ避クルカタメニ任為セ
ラレタル保証若クハ預托ノ之アリタルヿヲ表
明スル公正ノ証書ノ呈出アルトキハ権制執行ヲ
廃止スヘク即テ消除ノ請求ヲ聽届クヘキナリ

司法省

訴訟法第六百九十一條第三項第六百九十二條
而シテ預托トハ争論ノ物件ノ預托ヲ云ヘルモ
ノトス此預托タル要求ノ名義中ニ於テ別段ノ
場所ヲ指定セサル限リハ之ヲ預托所（レヒンテンルグテルレス）ニ於テスヘキナリ保証ヲ差出スニモ亦
此ノ如シ故ニ保証ヲ差出シタルヿヲ証スル公
正ノ証書ハ通常預托所ヨリ発付スル所ノ保証
金ト定メラレタル金高ヲ預托シタルヿニ就テ
ノ定式ノ証書ナルヘシ勿論是レ唯通常ノ場合

ニシテ他ノ公正ノ証書ヲ以テ之カ証明ヲナスモ固ヨリ禁スル所ニ非サルナリ公正ノ証書ノ理義ニ付テハ訴訟法第三百八十條ヲ参照スヘシ裁判所執行吏事務章程ニ於テハ其第五十五條第三項ヲ以テ預托所ノ右証書ノ外猶區裁判所ヨリ発付スル所ノ預托ニ付スヘキ金額ヲ一時保管ノタメ受領シタルヿニ就テハ定式ノ証書及ヒ同第百十九條ニ照準シテ裁判所執行吏ヨリ発付スル所ノ預托所ニ逓送スルカタメ其金額ヲ郵便ニ差出シタルヿニ就テハ証書ヲモ公正ノ証書ナリトセリ此第二ノ証書ノ様式及ヒ記載ノ事項ニ付テハ千八百七十九年三月十四日制可ノ預托規則第十七條第三十九條又之ニ其職印ヲ押捺スルヿニ付テハ裁判所執行吏事務章程第三十四條ヲ参照スヘシ預托スヘキ金高ヲ一時保管ノタメ區裁判所ニ差出スノ目的ノ正ニ既ニ行フタル執行ノ措置ヲ廃止セシムルノ理由ヲ立ルニ在ルヿハ預托規則第七十四條第三項ニ因テ明瞭トス故ニ區裁判所ノ受領証書アルトキハ地所臺帳判事ハ以テ充分トスヘキナリ然レモ執行吏ノ発付スル該証書ニ付テハ其ノ之アルヲ以テ充分トスヘキヤ否ヤ大ニ疑フヘキ所アリ何トナレハ此場合ニ於テハ預托ハ金貨ノ真ニ預托所ニ到達シタルトキヲ以

テ始メテ結了スルモノニシテ即チ預托所ニ於テ之ヲ受領シタルキ始メテ預托アリタルモノト見做スヘキナレハナリ裁判所執行吏事務章程第五十五條ニモ亦唯権制執行ノ起始スルキニ関シテ此証書ノ了ヲ言ヘリ然レモ此場合ニ於テハ事執行ノ措置ノ廃止ニ係ルヲ何如セン

本條ノ規程ニ依ルニ訴訟法第六百九十一條第三項ニ該当スル証書ノ呈出アルキハ債主ニ於テ裁判上ノ書入要求ノ登記若クハ豫防登記ノ消除ニ付テ許諾ヲ肯フルヲ要セスシテ即チ唯負債主ノ之カ請求地所得有法第五十八條アレハ足ルナリ而シテ其間ニ於テ所有ノ轉換ヲ生スルモ只現在ノ地主即チ所有継続人ニ於テ消除ノ請求ヲナシ負債主即チ旧地主ニ於テ預托ヲナシタルノサヘアレハ更ニ右ト異同ナキナリ然レモ此際預托ノ負債主ヨリ出テスシテ所有継続者ノ其権理ヲ承ケテ之ヲナスハ其ノ能ハサル所トス何トナレハ保証若クハ預托ヲ以テ権制執行ヲ避クルハ独リ負債主ニノミ任為セラル、所訴訟法第六百五十二條第二段ナレハナリ其他地所臺帳判事ノ訴訟法第六百九十一條第三項ニ該当スル証書ノ呈出アリタルヤ否ヤヲ顧視スヘキハ既ニ訴訟判事ノ而カモ裁

判々決ヲ以テ負債主ニ保証若クハ預托ヲ以テ
権制執行ヲ避クル〕ヲ任為シタル場合ニ止マ
ルハ論ヲ待タス
説明ニ據ルニ本條ノ要領ハ地主ヲシテ直チニ
地所臺帳判事ニ就テ消除ヲ請求スルノ自由ア
ラシムルニアルナリ而シテ地所屆入券ノ発付
アリタリシ場合ニハ其ノ必ス之ヲ呈致セサル
ヘカラサル〕勿論トス

第十二條

第一 説明ニハ之ニ付キ千八百七十九年三月四
日制可ノ法律第二十二條第一段ヲ指示セリ其
他又訴訟法実施規則第十六條第三段及ヒ地所

臺帳法第三十三條ヲ参照スヘキナリ蓋シ此規
程ヲ地所得有法第十九條第二十二條ト相違シ
テ差押ノタメニスル豫防登記ノ場合ニ迫推及
シタルハ訴訟法ノ原則ニ於テ差押ノ命令ノ執
行ヲ其他ノ要求ノ名義ノ執行ト全ク同一視シ
タルニ相適フモノトス又之ヲ消除ノ場合ニモ
推及シタルハ其理由原被告両造ノ自ラ訴訟ヲ
経紀スヘキニ在リ

第二 此規程ハ今日訴訟ヲ経紀スル原則ノ一結
果ニシテ即チ今日ハ最早権制執行ヲシテ訴訟
判事ノ媒介スル所トナラシメス総ヒ其ノ之ヲ
媒介スル〕アルモ甚タ稀レナルヨリ出ルナリ

抑モ登記ノ請求ノ復タ許訟一件書類ノ中ニ向ケラル、ヿヲ須ヒス隨テ亦許訟判事ヨリ地所臺帳判事ニ登記ノ囑托ヲナスヿアラサルニ至リシヨリ地所臺帳法第三十七條ノ規程ハ大ニ実際上ニ於テ議論ヲ生セシメタリ其故タル他ナシ一方ニ於テハ債主ノ自ラ登記ヲ請求スルニハ其ノ私ノ書面ヲ以テセラル、モ之ニ添ヘタル所ノモノ、執行シ得ヘキ裁判々決ナルキハ此レ以テ地主ノ共フル登記ノ許諾ヲ記載セル所ノ公認アル証書ト方式上ニ於テ同視スヘシ地所臺帳法第三十三條トテ其登記ノ請求ヲ許サル、ニ許訟代理者ニ至テハ何ヲ以テ同一ノ請求ヲナスニ猶公証人ノ公証若クハ裁判所ノ公認アル委任ヲ要スルヤ甚タ疑ハサルヲ得サリシナレハナリ然ルニモ拘ハラス皇室裁判所ハ之ヲ要ストシタリキ而シテ是レ正当ノ見ナリトス何トナレハ許訟法第七十七條ノ規程ハ唯許訟代理者ノ核実上ノ権限ニ渉ルモノニシテ其ノ地所臺帳判事ト交渉スルノ際ニ踐ムヘキ方式ニ至テハ方ニ地所臺帳法第三十七條ノ規程ノ在ルアリシノミナレハナリ今ヤ実際ノ需要ニ應シテ手続ヲ簡短ナラシメンカタメ下院ノ委員會ニ於テ若クハ請求ヲナス許訟代理者ノ委任ハノ数語ヲ挿入セラレタリ其許訟

代理者ノ代言人ナルト然ラサルトノ區別ハ爰ニ立テラレサリシナリ

司法省

同 法 酒